



受精卵移植技術による優秀な子牛生産は、家畜改良促進や肉用牛・乳用牛を飼養する農家の所得向上に役立ちます。

しかし、供卵牛から採取される正常な受精卵の数や割合は、遺伝的な要因に加え、農家ごとに異なる給与飼料の影響を受けます。

そのため、受精卵採取処理前に供卵牛の採血を行い、血液生化学検査結果を基にした給与飼料の適切な補正や改善を行うことで、採卵成績の向上を図る飼料給与技術を開発しました。

これは、ヒトでいう食事療法に当たります。例えば、血中のBUN（血液尿素窒素）タンパク

ク摂取量の指標）が低い供卵牛は、受精卵を採取する前の約2週間、タンパク含量の高い大豆かすなどを増やす飼料管理を行

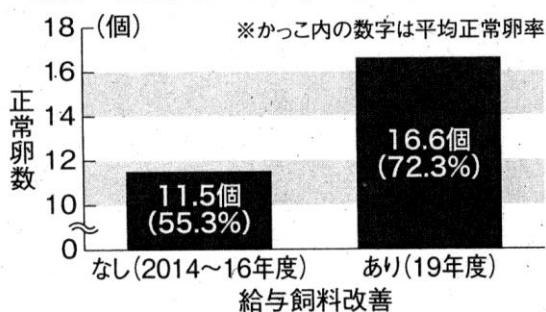
## 牛 受精卵の質向上

# 採取前に血液検査し 足りない栄養素補う

います。

飼料給与改善を行うことで、正常な受精卵の数や割合は、改善前の成績と比較して大幅に増

採卵1回当たりの平均正常卵数の推移



加します。図。

この技術を第12回全国和牛能力共進会に向けた候補牛確保対策に活用したところ、目標の200個を上回る300個以上の受精卵が確保でき、技術の実証も順調です。

「長崎で受精卵を取るなら、今！」です。

(県農林技術開発センター畜産研究部門 大家畜研究室主任 研究員 山崎邦隆)